



ふじあざみ



青空に向けて山頂を目指す（写真：遠藤久・山梨県南部町）

平成16年、富士山の登山シーズン始まる

富士登山の厳しさ

登山シーズンの7月1日から8月末頃までの約2ヶ月間には、日本全国はもとより海外からも多くの登山者が訪れ、小学生からお年寄りまで多くの方が登山を楽しみます。しかし、なんといても日本一の高さを誇る富士山（標高3776m）下界と山頂の気温差は20度以上、空気も3分の2の薄さになってしまいます。更に森林限界を超えれば、風をよける場所もなく、雨が降れば下からも吹き上げます。そして、それに加えて過酷な登り坂が続きます。

山頂に到達したとしても、次には折り返しの下りが待っています。下りは

登りよりも滑りやすく、^{ひざ つまさき}膝や爪先を痛めやすくします。

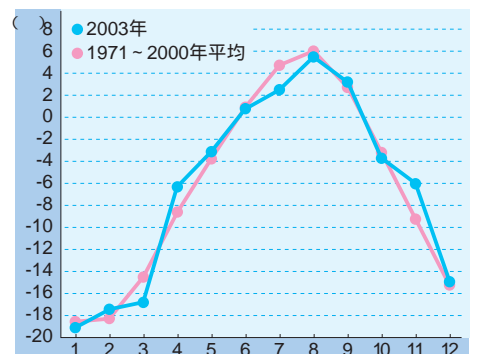
そしてさらに気をつけなければならないのは、登山中に体調がおかしいと思ったとき、そんなときは高山病の^{せん}前兆かも知れません。高山病は高所で空気が薄くなり、血液中の酸素が低下すると、それに体が対応して心拍数があがったり呼吸数が増えたりし、体が対応できなくなり始めると頭痛、吐き気といった症状が現れます。無理をせず自分のペースを守り、徐々に体を高所環境にならしていくことが大切です。

安全を願う

毎年、富士山の登山シーズンは、登山者等の安全を祈願して行われる7月

1日の「お山開き」から始まります。「お山開き」は、元々各登山口で行われる宗教的行事でした。そして近年はそれに観光的意味合いも加わり、様々な行事が行われ、富士山周辺の夏の^{ふうぶつ}風物詩となっています。

富士山頂の年間月別平均気温



参考資料：富士山頂測候所データより

今夏の富士登山の安全を願う 富士山の基礎知識

富士山周辺の各登山口では、お山開きに合わせて様々な行事が行われます。古くから伝わるもの、まちおこしのために新しく加わったもの、富士登山にあやかり、子どもたちの健やかな成長を願うもの等々…。

各登山口で行われる 「お山開き」の行事



湧玉池でのみそぎ神事（写真：佐野写真館・富士宮市宮町）

現在、主な富士山の登山口を有するのは、富士宮市・御殿場市・富士吉田市・富士河口湖町・小山町の三市二町で、富士山五口協議会を設けています。

富士山「お山開き」には、各登山口の浅間神社や市や町、関係団体によって様々な行事が執り行われています。

以下、各登山口の紹介と「お山開き」の行事についていくつか簡単に紹介します。

富士宮口（富士山本宮浅間大社）

富士宮口の新五合目は、標高2,400メートル、富士山最高峰剣ヶ峰へは最短のコースです。

富士宮市は、かつて富士山信仰で栄えたまち、お山開きの行事も多彩で、市をあげた行事が行われます。

富士山本宮浅間大社で6月30日の深夜から行われる開山祭では、湧玉池での「みそぎ」が行われます。「みそぎ」とは、神事の前や大事な事を神様にお願いする前に、川や海の水で心身を洗い清めることです。富士登山が信仰を目的とし、命がけであった時代は、心身を清めなければ山に近づくことも許されないとされていたのです。

御殿場口（新橋浅間神社）

御殿場口の標高1440メートルの新五合目から山頂までの高度差は、4コース中最大で、2300メートルを超えます。下山道は8月に開催される富士登山駅伝でもおなじみ、豪快な「大砂走り」のコースです。



三歳児健脚祈願（写真：御殿場市商工観光協会）

御殿場市の新橋浅間神社で行われる開山祭では、「三歳児健脚祈願」が行われます。大きな草鞋の上に3歳になった子供をのせ、「富士山に登れるような丈夫な足になりますように」と祈願します。また、勇壮な奉納太鼓も行われます。

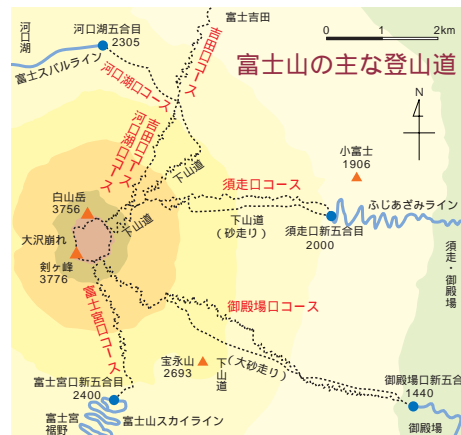
吉田口（北口本宮富士浅間神社）

吉田口コースは、江戸時代に盛んであった富士山信仰登山の人々にも利用された、歴史ある登山道で、山麓の北口本宮富士浅間神社から始まります。

6月30日に、この神社の、登山道入口



2004年6月30日、お山開きの注連縄が切られた瞬間



の鳥居に張られた注連縄を、力持ちの神様「手力男之命」に扮した男性が木づちで切り落とします。450年続いているといわれる「お導開き」の神事です。

河口湖口（小御獄神社）

河口湖口は、標高2305メートルの五合目まで富士スバルラインを利用するコースで、ここから大勢の登山者が山頂を目指します。7月1日には、五合目にある小御獄神社で開山祭が行われ、大天狗、小天狗によるお道開きや、登山者の安全を祈願してみこしが繰り出されます。

このコースは、六合目で吉田口コースと合流します。

須走口（富士（須走）浅間神社）

須走口新五合目の標高は2000メートル。河口湖（吉田）口コースと合流する八合目までは比較的ゆるやかです。下山は砂走りを利用して比較的楽に下れます。

7月1日には、富士浅間神社での開山祭と、白装束の江戸時代の登山者に扮した「江戸時代の登山」パレードが行われます。

このパレードで、お祓いを受け、須走地区周辺の富士山信仰の旧跡や小富士等を散策する「富士山 開山式と江戸時代の登山体験」の参加者も一般から募集されます。

以上の登山口以外でも、富士山の夏山シーズン開幕に合わせて、各地で一斉に祭や行事が行われます。登山シーズンを迎えて行われる「お山開き」の行事は、富士山麓の夏の風物詩です。

富士山に暮らす

ワサビといえば伊豆や安倍川上流が有名ですが、富士山の湧水を使ったワサビ栽培も行われています。

地元名産「富士山湧水が育てるワサビ」

生育環境が難しいワサビ栽培

ワサビの成育には、水温、水質、水量、気候、土の性質、日射量などむずかしい条件が整わなければなりません。豊かな自然を有する静岡県は、こうした環境に恵まれて、全国ワサビ生産量の約半分を占めています。その中でも、安倍川上流と伊豆は有名で、安倍川の有東木では370年ほど前に、伊豆の天城山では170年ほど前に栽培が始まったといわれてい

ます。

こうした中で、地元名産として愛されているのが、富士山周辺の清らかな湧水を利用して栽培されている、小山町や御殿場市、そして富士宮市猪之頭のワサビです。

富士宮市の北部、猪之頭地区では「猪之頭湧水群」と呼ばれる豊富な湧水を利用して、大正時代中頃からワサビの栽培が始まりました。その後、昭和33年9月の狩野川台風により伊豆のワサビ田に

大被害が出てしまい、富士山周辺のワサビが注目を集めるようになりました。



富士山に寄せる想い

開拓酪農家の人々の想いがつまったまきばの駅1号、富士ミルクランド

朝霧高原開拓の歴史

富士山麓の西部にある朝霧高原は、鎌倉幕府を開いた源頼朝が、自分と武士の力を示すため、全国から10万の騎馬武者を集めて、壮大な巻狩りを行ったことで有名です。この高原は、富士山の噴火による火山灰地で、水が無く、長い間農地に適さない不毛の地とされてきました。

長野県から開拓団が入り、雨水を飲み水としながら、原野を畑に変えていったのが今から56年前のこと、しかし思うように作物は育ちません。やがて、それぞれが家を持つようになりましたが、ほとんど自給自足の生活をつづけ、ようやく1949年には待望の水道が引かれました。

こうした中、この地が酪農に適していることがわかり、農業から酪農への転換が進んだのです。現在、牧草地は1000ヘクタールに広がり、日量80トンもの



牛乳を生産する日本有数の酪農地となり、開拓2世へと引き継がれています。

(巻狩り：四方を取り巻いて獲物を追い込む狩り。)

富士ミルクランドの誕生

富士ミルクランドは、朝霧地域の酪農家たちの夢「自分たちで搾った牛乳を自分たちで売ろう、酪農の歴史・文化を伝える場所にしよう」と、1996年に国の改善事業として富士開拓農業協同組合の資本で建てられました。(現在、ミルクランド株式会社に経営権を譲渡)

酪農を長期間体験できる宿泊施設、地域の野菜や畜産物をメ

ニューに取り入れたレストラン、朝霧高原産の生乳をふんだんに使ったチーズやアイスクリームを製造する工房、そして特産品売場。

また、酪農を2世に引き継いだ開拓1世たちが、酪農で培われた土壌で有機無農薬野菜を作り販売しています。

そして、小動物や家畜などとふれあえる広場や牧草地もあり、都会から訪れる人が、酪農を楽しく体験できたり、都会の喧騒を離れてのんびりした時を過ごすことができます。

「まきの駅」テーマは「まきば」

「ひと・テーマ・まち」をつなぐ拠点として、全国に200箇所以上の「まきの駅」が、NPO法人地域交流センターにより認定されています。その中で、全国で有数の酪農地帯を持つ朝霧高原の富士ミルクランドは、「みどり・牧場・牛」を連想させる「まきば」をテーマとして、平成14年11月「まきの駅」に認定されました。呼称は「まきばの駅」です。

農業には適さない富士山麓の過酷な土壌条件を逆手にとって培われてきた朝霧高原の酪農。まきの駅富士ミルクランドは、この酪農家たちの夢を背に、都会から訪れる方との交流の場として、朝霧高原の環境と歴史・文化を次世代へとつなげていきます。

(ミルクランド職員一同談)



富士ミルクランド <http://www.fujimilkland.com>

お知らせ

台風6号への対応

6月21日(月)6時30分から6月22日(火)8時30分の間、台風6号の接近に伴う大雨のため、富士砂防事務所は「土砂災害等対策支部」を設置し、土石流の発生等に備えました。

今回の台風で、当事務所の二合目観測所(静岡県富士市大淵、標高1,380m)において、20日4時の降り始めから22日2時までの連続雨量は434mm、日雨量317mm(21日)、最大時間雨量52mm(21日16時~17時)という大雨を記録しました。富士山大沢崩れより土石流を伴った過去の大雨(H3年、H9年、H12年)に匹敵する程だったことが下表からも読みとれます。

富士砂防事務所では、6月22日(火)8時30分より砂防施設の点検と漂流巡視を行い異常の発見に努めましたが、幸い異常は見当たりませんでした。

過去の大沢川での土石流発生状況とそのときの降雨状況

土石流発生年月日(大沢川)	気象要因	連続雨量(mm)	日雨量(mm)	最大時間雨量(mm)	大沢川扇状地への堆積土砂量(m ³)
平成 3年11月28日	低気圧に伴う大雨・融雪	226	166	39	182,000
平成 9年 6月20日	台風に伴う大雨	321	221	63	260,000
平成 9年11月26日	低気圧に伴う大雨・融雪	298	283	33	172,000
平成12年11月21日	低気圧に伴う大雨	260	149	37	280,000

第1回由比地すべり対策検討委員会開催

静岡県庵原郡由比町由比地区(サツタ山)において、豪雨や東海地震等により大規模な地すべりが発生するおそれがあることにより、地すべり機構とその対策の基本的な方針について検討するために、地すべりに関する学識経験者等で構成した由比地すべり対策検討委員会を設立し、この度第1回委員会を6月17日(木)、18日(金)に開催しました。

第1回委員会では、由比地区地すべりの概要、既往調査結果等を基に、地すべり対策の必要性及び当面の調査・観測方針について検討しました。

富士山火山砂防事業連絡会開催

5月21日(金) 富士山の砂防事業の円滑な推進のため、山梨県、静岡県、富士砂防事務所の砂防関係者が集まり「富士山火山砂防事業連絡会」を開催し、それぞれの今年度予定事業の報告、課題等話し合いました。

会議では、光ファイバー等の施設整備による富士山の情報の共有化について議論を行いました。

富士山ハザードマップ検討委員会開催

6月7日(月) 富士山ハザードマップ検討委員会は、「富士山火山防災マップ」の試作版をまとめました。防災マップは、「溶岩や火砕流の到達予測範囲などを示した一般配付用マップ」、「観光地と火山の関係を解説した観光客用マップ」、「避難範囲を示した防災業務用マップ」の3種類。

今後、関係市町村は、このマップを参考に、避難所の位置や、緊急時の連絡先などを盛り込んだ市町村版の「防災マップ」の作成を行うこととなります。

平成16年度 土砂災害防止月間(6月)報告

実施日	行事内容	参加人数	開催場所
6月10~16日	砂防事業に関するパネル展示 土石流などのVTR放映	1,846	富士川町道の駅「富士川楽座」
6月20日(日)	砂防フェスティバル静岡	多数	静岡市「青葉シンボルロード」
6月22日(火)	フウちゃん公園記念植栽	42	潤井川沿いフウちゃん公園



砂防フェスティバル静岡 6/20



フウちゃん公園記念植栽 6/22

第15回風土工学シンポジウム開催

6月25日(金) 中央大学で第5回風土工学シンポジウムが、「治山・治水」と風土工学」というタイトルで開催されました。当事務所からも富田事務所長が「富士山のイメージと地域特性 感性評価の試み」と題して講演を行いました。後半では、5人の講演者のパネルディスカッションがあり、景観十年・風景百年・風土千年という言葉が印象的でした。

富士山総合学習及び現地見学会結果報告

実施日	見学者等	参加人数	行事内容
5月25日(火)	富士宮市立富士宮第一中学校	180	扇状地見学
5月25日(火)	韓国	10	扇状地見学
5月30日(日)	静岡ロータリークラブ	45	概要説明と扇状地見学
5月31日(月)	JICA(アルジェリアなど)	7	概要説明と扇状地見学
6月 1日(火)	台湾	10	扇状地見学
6月 4日(金)	富士宮市立富士宮第二中学校	13	総合学習
6月 4日(金)	日本大学学生	18	概要説明・講演会
6月 9日(水)	富士宮市内瑞穂区さくらの会	40	扇状地見学
6月10日(木)	JICA(インドネシアなど)	3	概要説明と扇状地見学
6月11日(金)	JICA(インドネシアなど)	3	大沢崩れ見学
6月16日(水)	NHK	1	取材
6月17日(木)	大阪府堺市臨海消防署	9	概要説明・講演会
6月22日(火)	富士宮市立富士根南中学校	50	概要説明・講演会
6月25日(金)	富士宮市立大宮小学校	97	扇状地見学



富士宮第二中学校の皆さん



見学者の皆さんから激励のお手紙が届きました。ありがとうございます。

夏休み富士山大沢川扇状地自然観察会 参加募集

実施日時:平成16年8月4日(水) 8:30~16:00 予定

対象:小学生~一般(小学生は父兄同伴)

参加費:500円(交通費及び保険料) 定員:100名

申込方法:往復ハガキかEメールにて、住所・電話番号・氏名・年齢(ご家族・グループの場合は全員と代表者)を記入して、7月26日(月)までに富士砂防事務所へお送り下さい。参加案内を返送します。 Eメール info@fujisabo.go.jp

第9回 富士山への手紙・絵コンクール作品募集

手紙部門

応募資格:小学生以上の方ならどなたでも応募できます。

作品規格:1人1点(未発表のもの)、官製ハガキにて400字以内。

絵部門

応募資格:どなたでも応募できます。

作品規格:1人1点、未発表のオリジナル作品に限ります。

画材や表現方法に制限はありませんが、クレヨンなど他の作品を汚すおそれのある画材はご配慮ください。

四つ切(54.0×38.0cm)用紙、または、F10号(53×45.5cm)キャンバスをご使用ください。

募集要項 応募期間 平成16年7月1日(木)~9月16日(木) 当日必着

送付先 〒418-8601 富士宮市弓沢町150番地

富士宮市教育委員会

「富士山への手紙・絵コンクール」事務局宛

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験された方の情報提供をお願いいたします。

<連絡先>

富士砂防事務所

担当/総務課長・釜崎、または調査課長・伊藤まで

TEL.0544-27-5387

<お問い合わせ先>

国土交通省富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1

TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。